# **音が聞こえるほどにガーンときた**

音が聞こえるほどにガーンときた

ただ激しすぎる思い込みだった

考えていたことは絶対正しいと

信じて疑わないようになってた

広くみれる力を

持ち合わせていたなら

凝り固まらないで

目線合わせできただろう

これが一番いいことだと思っていた

面倒な人には成りたくないと

思っていたけれどいつの間にか

自分だけの感情に任せて

物事進める人になってた

ひと息いれるゆとりを

持ち合わせていたなら

独りよがりではなく

周りの声聞けただろう

これが一番いいことだと思っていた

​

# **冬の庭先で**

冬の庭先では緑も無くなって

地面の土の色が黒ずみ目立つ

枝だけになったバラの

足元スズランの枯れ葉

抜けずに残っていた

茶色がちになって

今ではすっかり何もなくなり

やがてくる春に備えるよ

あたたかく土の中かくれてる

誰にも気づかれないように

冬の庭先の

門扉さわれないほど冷たい

ねじカバーに隠れてた

アリたちもどこに

球根を残して

高砂百合早くから消えてた

コンクリートに挟まれた

わずかな土の中

今ではすっかり何もなくなり

やがてくる春に備えるよ

あたたかく土の中待ってる

誰にも気づかれないように

# **古都の雪**

赤いから傘　雪降るまち

少ない訪れる人

焦茶色の木造の間

着物で歩く後ろ姿みえる

随分前の儚い記憶突然

よみがえり苦しくなる

二十歳を過ぎた時

別れたばかりのこと

鮮明に思い出す

昨日のことのように

積もらない雪それでも激しく

冷たい風に吹かれて

焦茶色の木造の下

竹やらいがこの目に染みる

随分前の儚い記憶突然

よみがえり苦しくなる

あの時このように

一人で歩いた道

はっきり思い出す

昨日のことのように

# **冬至を過ぎたなら**

冬至を過ぎたなら

毎日少しずつだけ

昼が長くなることで

春に向かう気がする

そしてあと少し最後のひと頑張りで

面倒なことも年と共に忘れよう

いつものことながら

これから昇り始める

だんだんに良くなる

勇気づけられるひととき

冬至を過ぎても

まだまださらに寒くなる

緩むことだけ気を付けて

崩れないように

そして今年も無事に終われるように

とりなす気持ちも新たにスタートだ

いつものことながら

これから昇り始める

だんだんに良くなる

勇気づけられるひととき

# **０２５**

今朝のニュースで

原発の運転禁止命令解除聞いた

あれはちょうど40年前

建設中の新潟　幾度となく

１泊２日で通ったこと思い出す

駅の周りも人が少なく

ほとんどは缶ビールだけで

夜を過ごした　今はなくなった

ビジネスホテルで

そこで働く人たち

みんな一つの寮に家族と別れたまま

訪ねた部屋で見せてもらうアルバム

そこに写る家族との何気ない姿が

大切にしてる暮らしうかがわせる

まれに繰り出す夜の街では

そこに住んでる人たちの

温もり感じる

また行ける時があるのだろうか

# **もう無理**

どうすることもできない

思うようにいかない

何をすればいいのか

わからなくなってしまう

もう無理　このままこれ以上は

ここまでのかたちにとらわれてる

たとえ自分だけが変わったとしても

周りを変えることはムヅカシイ

潰れてしまうことより

いったん引くしかない

情けなくなることでも

しばらくガマンするだけ

追い詰められたこの世界で

あるべき姿も見えてきた

その理想を失わず

やり直す勇気欲しい

もう無理　このままこれ以上は

自分の世界にこもってしまう

だけど自分だけのことでなくて

関わる人たちと共にしないと

知らないうちできる壁

近寄りがたいモノに

情けない姿かくす感情が無意識に

追い詰められたこの世界で

後ろ向きな思い気づいた

その自分と向き合って

やり直す勇気欲しい

​